

にながわ のりたね
な ら すじみち
蜷川式胤 「奈良の筋道」

米崎清実 編著

本書は、蜷川式胤が筆録した「奈良之筋道」ならびに「明治三年覚書」、「服制に関する建言書案」、「服制に関する書状案」を収録する。

蜷川式胤は「観古図説」、「徴古図説」、「好古図説」などを編纂、刊行した好古家である。明治政府に出仕し、明治初期の博覧会の開催に携わりとともに、博物館の建設を推進した。蜷川は、また、シーボルトやモース、キヨソーネなど当時来日した外国人と親交が深く、日本の古美術を海外に紹介した。蜷川は、日本の近代国家成立期の文化行政において、きわめて重要な役割を果たした。

壬申検査とも言われる明治五年（一八七二）の社寺宝物調査は、明治期になり初めて正倉院の開封調査が行われたこともあり、蜷川式胤の事績の中で著名なものである。「奈良之筋道」は、この蜷川による明治五年の社寺宝物調査の記録である。従来、歴史学や美術史などの分野から貴重な資料として注目され、部分的には紹介されてきた。何度か刊行は試みられたようである。しかし、蜷川式胤独特の難解な文字の解読と、社寺宝物についての豊富な知識を必要とするため、果たされることはなかった。

「奈良之筋道」には、社寺の宝物や建造物、風景、風俗など、横山松三郎が撮影したとみられる八十一枚の鶏卵紙写真が貼付され、蜷川らが描いたと見られる宝物の略図なども描かれている。これらも可能な限り再現に努めた。



「奈良之筋道」式 東大寺正倉院（右）と二月堂（左）

■体裁 A5判上製函入 本文四八二頁
■定価 一三、六五〇円（本体一三、〇〇〇円＋税）

ISBN4-8055-0492-7 C3021

中央公論美術出版

<http://www.chukobi.co.jp>

〒104-0031 東京都中央区京橋2-8-7

電話 03-3561-5993 FAX 03-3561-5834

お取り扱い

明治初期の文化行政を実務の面から支えた好古家、蜷川式胤の事績を追跡していくことは、近代国家成立期における政府の文化政策、社会の文化的価値観の変化を検証する意味をもつものである。さらには、シーボルトやモース、キヨソーネなど欧米との明治期の文化交流を解明するためにも意義あることといえよう。明治国家の形成過程や政府の文化行政を検証していくうえで歴史学、美術史、文化財学など幅広い研究分野から待望されていた、蜷川式胤関係史料の翻刻。



目次

奈良之筋道 参 式 卷

奈良之筋道

奈良之筋道

奈良之筋道

関連史料

明治三年覚書

服制に関する建言書案

服制に関する書状案

おわりに

解題

編著者略歴

米崎清実 (よねざさき きよみ)

一九五九年東京都生

法政大学大学院人文科学研究科

日本史学専攻博士課程単位修得満期退学

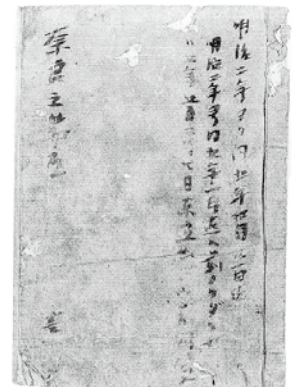
東京都現代美術館学芸員



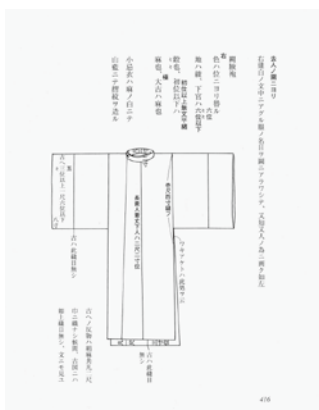
二見浦ノニツ岩ノ図



熱田本社図



「奈良之筋道」巻 表紙



【制服に関する建言書案】 関腋袍



東寺慶賀門



紫宸殿